



書首

源氏物語

権三
四十六





白十一

河 才九卷名立りんくもとれ 権本むじやうの床よりまきつらぬ
○花 宇治二哥の詞ととりて卷の名とせり 董十九歳の春より廿歳の妻までける也
十九の秋中納言よ成侍る也 竹川卷と同時也
○細 董廿二の春より次の年廿三の妻までける也 花鳥異あり不可用之

○三月の廿日 細 宿願とてしる也
○ころせよ 河 長谷寺のる在玉鬘巻

○中やとり 花 南都下四人の宇治と中宿と
と後この西葉るるも平太院とて由備のり有
細いしるすの頼宮とて春日条の使る
ハ中宿とせり也
孟八宮のりとゆりくおて由出也

○うめと云へも 花 うりやと云里の名古今
哥は世とちら山身とちら橋とてりやう
とていつ也 此は成の心とてりやう 哥元久
元年七月宇治西葉は時夜戀の題とて 定家
侍人の山と月とてとせりし里の名つとてり
とてり 床又名不秋哥は家隆姉 初霜のり
もあつてとてり 夜は里の名つとてり 衣が

○六条院より 花 河原花大匠殿の別業宇治より
陽成院とてり 此はよおとてり 宇治院と云也
宇多天皇朱雀院とてり 領行とて承平のり
よの遊獵有とてり 李部王記のり 其後六条

二月乃廿日のがてりまらぬまら
せよまらてり 花 古きとてりんく
まらぬががもてりてりてり
なりふらるるを 宿願のりとり
たりのゆりまらぬとてり
とてりつかりてり
もらるる里のりまらぬ
らおらるるを 世のり
いとねあつてりまらぬ
はらるるを 世のり
かてりまらぬ
とてりたのりまらぬ

○まきのく河さくくつ返る也又まきさく
○三宮 細 白宮也

○さろんこや 弄 董 昇進すといふうり
宿同るまよと 細 可然くともまきさく故
昇進も早速みみと
○その秋中納言は 細花鳥年の誤ハこり
出来ぬ也其秋ハ白宮宇治も春あひぬ
ひ年の秋也董廿二歳也董宰相との秋と
ふもその年の異有也竹川よへく昇進此事と
くまうその時とあやまき也
○いふまじく 細董の心中也昇進あつともまきと
さぬくはつまき也 花董の實れ父とさ

○さねまきん 細柏木の也罪とさく
ことと
○の老人 細弁の君也
○つらまきん 或は それとあひまきん
○まきん 孟又宇治董のまきん也

○七月はるよ 細前は其秋中納言のまきん
七月は成まきんといふと不審とる人あひ
くまの系より 誤あひし 昇進も七月まきん
○音羽の山ちく 花 後撰 松虫のまきん
秋は音羽山よりまきん 合衆音羽

まきののけりて
乃るまきん
てまきん
たまきん
りてまきん
いふまきん
なるまきん
さるまきん
おのまきん
まきん
世のまきん
まきん

まきののけりて
乃るまきん
てまきん
たまきん
りてまきん
いふまきん
なるまきん
さるまきん
おのまきん
まきん
世のまきん
まきん

相抄

○ 或扱人よき
○ 細 惟君

○ 或扱 八宮花後の

○ 弄 八宮の

○ 細 捨て行ぬ
○ 弄 八宮の心世の人

あしひぬ

○ 孟 八宮の内親子の
○ 細 境界縁の

○ 或扱 八宮の
○ 弄 弄

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text above.

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text above.

相抄

相抄

○いさく河古今也
しむいさくはあぢやそま衣こん

○三昧 河傳教大師云以諸方便樂閑靜攝心於
彼得三昧 花嚴經云我於諸佛中知一行三昧
取謂念佛三昧 是も念佛と三昧といふ
弄念佛三昧也字治よ二不此詞とくきうと
よ抑りくやとひきん
○きうよりんまきく 孟ノ宮の所也えま

ぬいハ八宮山より出する事也八宮山より今日ハ
出ぬこと皆に侍りつるに悩むことと出ぬ

○むほつれて 孟 姫君とらえ

○いさくして河六帖あるひのつれ
身はつてまはるねもあつてまはる

○いさくして河六帖あるひのつれ
身はつてまはるねもあつてまはる

ふりしむりきんまきく
物さしむりきんまきく
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる
今めしむりきんまきく
わいりくやもあつてまはる
いさくして河六帖あるひの
つれ身はつてまはるねも
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる
三昧くつてあつてまはる
まはるねもあつてまはる
けいりあつてまはる

らるるるるるるるるる
りのりりりりりりりり
もももももももももも
ええええええええええ
あしあしあしあしあし
いさくして河六帖あるひの
つれ身はつてまはるねも
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる
いさくして河六帖あるひの
つれ身はつてまはるねも
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる
いさくして河六帖あるひの
つれ身はつてまはるねも
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる
いさくして河六帖あるひの
つれ身はつてまはるねも
あつてまはるねもあつて
まはるねもあつてまはる

種本

種本

つづきあり 細あさう者病いぬ
○こころいひや尺細あさうの初

○君さらの 細非君さらのこと

○いしゝるれハ孟かんくの縁あり物さ
或扱別事也 生つこころ宿目ハ各別のこと

○今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと

○八月廿日の 孟ハ宮の山さしらの時分也

あさうのいひや尺細あさうの初
こころいひや尺細あさうの初
君さらの 細非君さらのこと
いしゝるれハ孟かんくの縁あり物さ
或扱別事也 生つこころ宿目ハ各別のこと
今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと
八月廿日の 孟ハ宮の山さしらの時分也

○あり明の月 細此河津舟巻さしらの初あり
うさし人也

○さしらの 細 彼寺の方也

○あさうのいひや尺細あさうの初
やうさしやうさしやうさしやうさし

○涙もろり 河史記曰 孝惠帝崩太后哭泣不下
哭ハるるも涙落さる心也嘆の切らる時涙不下といふ

あさうのいひや尺細あさうの初
こころいひや尺細あさうの初
君さらの 細非君さらのこと
いしゝるれハ孟かんくの縁あり物さ
或扱別事也 生つこころ宿目ハ各別のこと
今ころよみ 細妙寺を終とよりぬこと
八月廿日の 孟ハ宮の山さしらの時分也

○世とらうき世秋古人のさひいれぬ世君達
よきうやうきん

○又とてとれて細きものごとく春ははる
るのひろまゝさうやうは我りのさうさうと董の
つうくははる董の遠慮也

○世秋董の身上の存知り八宮(平人の密通の
をわつるひとありやうさうさひのつま

○とてうのり何ううろくも也とてとうと五音
通とらゆ也 細故宮まゝと時ハ法文と

○とひなりしは今ハ詮すべし
○にわやうのり弄八宮のぬり判とん

○秋やハくわう花三秋の中也
世秋あり秋の中ス方うううとん

○例の人ちりる孟八宮の住めれ也

○ゆわんものく 河内念誦具共

○うかまの人 世秋僧さうさう未いしとん

はるまゝのさうさうはるまゝのさうさう
ひいりもさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう

ちあまのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう
さうさうのさうさうのさうさう

○とまりて物思ひ孟くまとありて物思ひほく
と姫君しらの心と董の推量せたる人の斟せ
くる心也

○うらむて 或按あり長とありやせり

○秋さうの哥 董也 細董の心の中くれん
り雁とありなるよとせり

河うのらる峯れわさうくれとせり
世中のうさ 後撰ゆさうりてしうも秋るわ
ら秋さうりくとも 同ひとせり

○兵部卿宮の孟董と水會の時ハ宇治の
今ハさうとも 或按 白宮の心也又宮ま
はさうりてあり

○さうりてあり 或按 白宮ハさうりてあり
さうりてあり

○さうりてあり 万水 姫君の心也白宮ハ好色の各と
世ハさうりてありて風流の人とせり

○さうりてあり 或按 白宮ハさうりてあり
さうりてあり

○さうりてあり 或按 姫君ハさうりてあり
さうりてあり

あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり

あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり

あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり
あまのこころをさうりてありてありてあり

。とてしるこゝろい 細董のしるしをよみしむ
まづきつらうやとのほくろと

。里のちる人 河古今あまのむしりまのちる人よ
あつちのようらん人のいん

細井のりの里れちる人の我がまをそら河海
引奇我がちる人せしん

弄引奇よわと董の字治ちる人
巴扱ちる人

案内とてしるし
。何のちる人も 細何のちる人も
のちる人も

。とてしるこゝろい 細董のしるしをよみしむ
まづきつらうやとのほくろと

。何のちる人も 細公界のちる人も董のちる人も
まづきつらうやとのほくろと

。ちるこゝろい 細これちる人の心
めつれは名をまづきつらうやとのほくろと

ちるこゝろい 細これちる人の心
めつれは名をまづきつらうやとのほくろと

ちるこゝろい 細これちる人の心
めつれは名をまづきつらうやとのほくろと

ちのりりてあさるしくしとさうあねい
弄此哥卷の名とて

○ちのりりてあさるしくしとさうあねい
或抄董の山庄宇治近不可有

○君もちのりりてあさるしくしとさうあねい
巴抄董の山庄の人のまじり
とさうあねいさうし也

○老人よ弄弁をさる物ひひひんよあは
は
あ
細弁君のこころさうし也

○あひせとさる 或抄山庄の人よ被仰付也
○年々さう 細董廿三歳也

○汀のこりり 弄姫君の心をさるさうし也

○あつらうとも弄さるさるさるさるさるさる
三世よ今まてあつらうさるさるさるさるさる
観さるさるさる

○雪さるさる花雪さるさる袖あはれさるさる
さるさるのへはさるさるさるさる中務集

○いのろ河紫齋精進 神さるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさる

○さるさるのこりり 細姫君の心也

りてさるさるさるさるさるさる
ふとさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさる
目らあはれさるさるさるさるさる
よさるさるさるさるさるさるさる
よんまらさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさる
あやうさるさるさるさるさるさる
らんさるさるさるさるさるさるさる
つさるさるさるさるさるさるさる
あはれさるさるさるさるさるさる

あはれさるさるさるさるさるさる
よの氷さるさるさるさるさるさる
もさるさるさるさるさるさるさる
くりさるさるさるさるさるさるさる
らんさるさるさるさるさるさるさる
よさるさるさるさるさるさるさる
あはれさるさるさるさるさるさる
まらさるさるさるさるさるさるさる
本のさるさるさるさるさるさるさる
月白さるさるさるさるさるさるさる
まらさるさるさるさるさるさるさる
あはれさるさるさるさるさるさる
あはれさるさるさるさるさるさる

雑

雑

○君り初る哥大君也 弄八官の事也必八官の
ありはくさよわねも哥の躰也
細八官の在世をてるるこころはくさよわ
わきまも

○雪梅ささ哥中君也 花さるるやうに思
山よひひよう入てせせろ旗人わかれあやう
今案つらんやととハるうの草はつめわらう
とゆかりはつらんやととハるう
細 我々のわりあはらうはつらんやとと
ふもるるささ
巴梅 八官あつらんやととハるう
○中納言のよりも 細 巴下草子地也

○八やをさしと 河此巻の始はあつらんやとと
ありてきろくもとわらんやとと也

○君ららるるも 孟 白官の事也

○いとゆらん 孟 去年の春はるるといひ出て也

○はてまらん哥 白官也 細 去年の春はるる
乃と此春はるるとえ(ととと我々のよ中君と
乃とやとと) 孟 白官の中君ハレ哥也

○心とやつて 或按 白官の我と心とをいひ出
て

○あつらんや 或按 ありてらんやととあつと中君の
さハあつらんやととあつととあつと
○又あつらん 細 いく心はるるまはとゆ文の事と
いひ出て

君ららるるねのこころはくさよわ
わきまも

雪梅ささの事也
山よひひよう入てせせろ旗人わかれあやう
今案つらんやととハるうの草はつめわらう
とゆかりはつらんやととハるう
細 我々のわりあはらうはつらんやとと
ふもるるささ
巴梅 八官あつらんやととハるう
中納言のよりも 細 巴下草子地也
八やをさしと 河此巻の始はあつらんやとと
ありてきろくもとわらんやとと也
君ららるるも 孟 白官の事也
いとゆらん 孟 去年の春はるるといひ出て也
はてまらん哥 白官也 細 去年の春はるる
乃と此春はるるとえ(ととと我々のよ中君と
乃とやとと) 孟 白官の中君ハレ哥也
心とやつて 或按 白官の我と心とをいひ出
て
あつらんや 或按 ありてらんやととあつと中君の
さハあつらんやととあつととあつと
又あつらん 細 いく心はるるまはとゆ文の事と
いひ出て

雪梅ささの事也
山よひひよう入てせせろ旗人わかれあやう
今案つらんやととハるうの草はつめわらう
とゆかりはつらんやととハるう
細 我々のわりあはらうはつらんやとと
ふもるるささ
巴梅 八官あつらんやととハるう
中納言のよりも 細 巴下草子地也
八やをさしと 河此巻の始はあつらんやとと
ありてきろくもとわらんやとと也
君ららるるも 孟 白官の事也
いとゆらん 孟 去年の春はるるといひ出て也
はてまらん哥 白官也 細 去年の春はるる
乃と此春はるるとえ(ととと我々のよ中君と
乃とやとと) 孟 白官の中君ハレ哥也
心とやつて 或按 白官の我と心とをいひ出
て
あつらんや 或按 ありてらんやととあつと中君の
さハあつらんやととあつととあつと
又あつらん 細 いく心はるるまはとゆ文の事と
いひ出て

○つづくしる哥中君也 花ゆ草のへの極し
心わくハ今年ハくハと見れそめよまよせ
弄々もたえこめり花ハくハくハ心也眼者の
うへをいひてありてんと云心也墨跡ハ眼者の家
の心也
○まよぐ 或按中君のつぎの返り也
○まよぐしと 細白宮の心也

○せうくた 孟董と白宮のくた也

○わくめりろ 細白宮のわくめり也
○まよぐ 董のくたもみ也
○いとうかかん 世按いとうわくめりの中
立とみしん

○心ようし 細りだの返り也
○まよぐしと 細りだの返り也

○あかしの 弄々霧の六君と白宮

○されとみせ 或按 白宮の心也六君ハ近き親
類ありとみせは夕霧ハ霧とみせは夕霧
世ハくたのまよぐしと 制道せけんし
まよぐしと 制道せけんし

○三条宮 万水 廿三宮の座不炎上也

つづくしる
心わくハ今年ハくハと見れそめよまよせ
弄々もたえこめり花ハくハくハ心也眼者の
うへをいひてありてんと云心也墨跡ハ眼者の家
の心也
○まよぐ 或按中君のつぎの返り也
○まよぐしと 細白宮の心也

つづくしる
心わくハ今年ハくハと見れそめよまよせ
弄々もたえこめり花ハくハくハ心也眼者の
うへをいひてありてんと云心也墨跡ハ眼者の家
の心也
○まよぐ 或按中君のつぎの返り也
○まよぐしと 細白宮の心也

○まゝやうやう 細 蕙のふも也あまうよとひのふも
しる心もて大君ととらうらうらひあつた也

○わさねとる 巴 椒 姫君の心とをまては心わさ情
らうらうらうらととらうらうらと

○むーの心 或 椒 八宮よりふのふは悲切と又知
てうらうらとをなまてとらひ也

○俄とせうて 細 童 宇治也

○わさねとる 河 復の目とわさねとるあつた物と
らうらうらひのひまるらうら

○そのこの或 椒 古宮のあつた也

○さしわしよ 或 椒 花宴巻よ此河ありあつ
る也 黙然不有の心也

○うきうき 一 手 わるのわつた也

まゝやうやうとらうらうらと
わさねとる心とをまては心わさ情
らうらうらうらととらうらうらと
むーの心 或 椒 八宮よりふのふは悲切と又知
てうらうらとをなまてとらひ也
俄とせうて 細 童 宇治也
わさねとる 河 復の目とわさねとるあつた物と
らうらうらひのひまるらうら
そのこの或 椒 古宮のあつた也
さしわしよ 或 椒 花宴巻よ此河ありあつ
る也 黙然不有の心也
うきうき 一 手 わるのわつた也

とらひあつたもつたもつた
わさねとる心とをまては心わさ情
らうらうらうらととらうらうらと
むーの心 或 椒 八宮よりふのふは悲切と又知
てうらうらとをなまてとらひ也
俄とせうて 細 童 宇治也
わさねとる 河 復の目とわさねとるあつた物と
らうらうらひのひまるらうら
そのこの或 椒 古宮のあつた也
さしわしよ 或 椒 花宴巻よ此河ありあつ
る也 黙然不有の心也
うきうき 一 手 わるのわつた也

雑

雑



